

令和5年度 第3回総合教育会議 会議録

1 会議の名称 令和5年度 第3回 総合教育会議

2 会議の日時 令和5年12月25日（月） 午前9時30分～午前11時00分

3 会議の場所 中之条町役場 応接室

4 会議に出席した構成員

町 長	外丸 茂樹
副 町 長	篠原 良春
教 育 長	山口 暁夫
委員（教育長職務代理者）	湯本 茂夫
委 員	石田 優子
委 員	奈良 保宏
委 員	塚田 夕子

5 会議に出席した職員

こども未来課長	山本 伸一
生涯学習課長	須崎 幸夫
総 務 係 長	外丸 綾子

6 会議を傍聴したもの
なし。

7 協議

- （1）六合中学校の在り方について
- （2）幼児教育の在り方について

8 その他
なし。

9 会議における議事の経過及び発言要旨

- 開会（生涯学習課長）
- 町長挨拶
- 協議（議事進行 町長）
 - （1）六合中学校の在り方について
こども未来課長より、概要説明

① 「六合中学校の在り方説明会」の報告

- ・ 11 月 19 日（日）、六合支所において、六合小・中学校の保護者や六合地区住民に向けて、六合中学校の今後の方針について説明会を開催したので、その概要を報告する。
- ・ 六合中学校を義務教育学校にできない理由、中之条中学校と統合できない理由を説明し、今後は近隣町村への教育事務の委託に向け取り組んでいくことを説明した。
- ・ 委託先は長野原町を対象に考えていることを説明した。
- ・ 保護者からは、長野原町への委託が望ましいという意見が多数を占めていた。
- ・ 一部の六合地区住民の方からは、地域に学校を残してほしいという考えのもと、義務教育学校化を望む声もあがったが、保護者を中心に、長野原町への委託を希望する意見が多かった。

②教育事務の委託に向けたスケジュール素案の検討について

- ・ 教育事務の委託に向けたスケジュール素案を提示した。
- ・ 令和 8 年 4 月の委託開始を目指し、合同部活動や生徒間交流などが早い段階から実現できるよう検討してまいりたい。

③吾妻郡内の中学校生徒数の推移について

- ・ 郡内全ての中学校で生徒数が減少すると予測されている。
- ・ 中之条中学校を基にすると、吾妻郡西部地区では令和 8 年度、東部地区では令和 16 年度には、中学校を 1 校と考えてもよいほどの生徒数に減少する。

【質疑・意見等】

（町長）

11 月 19 日の「六合中学校の在り方説明会」は教育委員の皆さんにも出席いただいたので、内容はよくわかっていらっしゃると思う。本日は、六合中学校の教育事務に向けたスケジュールについて教育委員会の考えをお示しいただき、この総合教育会議で確認してまいりたい。教育長、本件について教育委員会の考えをお聞かせください。

（教育長）

これまで長い間、六合中学校の在り方を検討してきたが、先日の六合地区説明会で長野原町への教育事務の委託におおむねの方が賛同していることが確認できた。委託に向けたスケジュールに則って、長野原町への教育事務の委託に向けて進めてまいりたい。学校を残してほしいという方のお気持ちもよくわかるが、何よりも六合中学校の生徒たちが必要とする体験や学習をできるよう、子どもたちの学習環境を第一に考え、最善を尽くして取り組んでまいりたい。

（町長）

教育長から、教育委員会の方針を確認させていただいた。先日の六合地区説明会を踏まえ、子どもたちの教育を第一に考え、長野原町への教育事務の委託を進めていきたいということで、町としても、その考えを尊重して進めてまいりたい。地域の方には様々なご意見もあると思うが、丁寧に対応しスケジュールに沿って進めていければと考えている。

また、吾妻郡内の生徒数の減少が著しいことを考えれば、10 年・20 年先を見据えた郡全体での中学校の在り方を考えるスタートにしていかねばならない。令和 17 年には、中学校の生徒数は、

吾妻郡東部地区全体でも 220 人減少すると予測されており、このような状況を首長や教育関係者の皆様とともに、議論していかなければと考えている。

（湯本教育長職務代理者）

六合地区の説明会後、数名の方から質問や要望があった。この件に関しては長い間話が停滞していた状況もあったが、今でも「中学校を存続させてほしい」、「六合小・中学校を一緒にしても良いから義務教育学校化して学校を残してほしい」という意見がまだ出ている。しかし、子どもの数の減少スピードを考えれば、一刻も早く何とかしないと、どう仕様もなくなってしまう。「現状のままにしてほしい」という意見もある一方で、ほぼ半数以上の方の心中には、「早く何とかしてくれないか」という気持ちがあると思う。今回、委託に向けたスケジュール案が示されたので、これに沿って進行していただきたい。

（石田委員）

町内ではこれまでも学校統合を幼・小・中と何回か経験しているが、いつも学校を残して欲しいという意見はあったと思う。学校統合には、子どもの数や教育環境の問題で、統合せざるをえない事情があった。実際、統合して良かったと今も思っている。

ただ、今回は町内の学校との統合ではなく、他町村へ委託するということが保護者や地域の方にとっては、不安であったり、想像が及ばないことであったりして、何とか学校を残して欲しいという想いが募るのかなと思う。しかし、子どもの教育のことを第一に考えれば、委託が望ましいということを丁寧に説明しながら着々と進めていくことが、最終的には子どものためになると思う。

（奈良委員）

先日の定例教育委員会でも、このスケジュールで進めていくと合意し、説明会でも令和 8 年度からの委託を目指すとして示されていたので、この通りに進めていただきたいと思う。

何が子どものためになるのかと考えれば、子どもの教育を受ける権利を大人が保障してあげることだと思う。それは、六合の子どもたちが、同級生たちと切磋琢磨^{せつさたくま}していくことだとか、たくさんの友達と交流して充実した学校生活を送ることだと思う。こうしたことは、委託を進めていかなければ実現できないと思う。

（塚田委員）

説明会に出席して受けた印象は、とても不安な気持ちでいる保護者が多いということ。その原因は、先が想像できないということと、新しい学校で我が子が馴染めないのではないかとこの心配からくるのではないかと。そのような中で、部活動と一緒にすることで、新年度から交流が始められるのであれば、子どもにとっても保護者にとっても安心感につながると思う。少しでも新しい学校に馴染めるよう、ぜひ部活動の合同練習は実現させて欲しい。また、今後は経過の都度、情報提供を細かく行っていただき、保護者が心配することのないよう努めていただければと思う。ホームページなどで多くの方に経過を知っていただくことも、保護者にとっては安心感につながるのではないかと。

（町長）

今までの学校統合と違い、違う町村の学校へ行くということが保護者にとってたいへんな不安なのだと思う。中之条中学校の統合でも、教場時代を経て 2 年間ほど交流をしてから、本統合を行った経緯がある。今回も部活動の合同練習などで 2 年間しっかり交流を深めながら進めていくのが

よろしいという意見に私も賛成である。スケジュール案にもこの点が盛り込まれており、事務局の丁寧に進めていく姿勢が表れていると思う。

教育委員の皆様の意見も一致しており、教育委員会と町、双方の意向が合意できた。このスケジュールを基に、長野原町へ六合中学校の教育事務の委託をお願いする方向で、今後の調整を進めてまいりたい。

(2) 幼児教育の在り方について

こども未来課長より、概要説明

- ・中之条保育所に開設している子育て支援センターを令和6年度から中之条幼稚園に移設したいと考えている。移設先を中之条幼稚園に選んだ理由は、未入園児を持つ親に対し、幼稚園教育に触れる機会を作り、幼稚園教育の魅力を啓発できるというメリットがあることである。教育委員の皆様には承認をいただいているが、町長にもご理解をいただきたい。
- ・近年、中之条幼稚園と沢田幼稚園の園児数の減少は顕著であるが、対応策として令和4年度から通園区域を廃止する試みを行ったが、その効果は現れていない。保育所の入所者数は増える一方であるが、幼稚園の入園者数は減っている。
- ・補足資料として、①町内の出生件数の推移、②町人口の推移、③町内の学校別児童数の推移をお示しするので参考としていただきたい。なお、令和5年度の出生数は55件となる見込みで過去最少である令和4年度の48件に次ぐ低い水準である。また、過去10年間の人口減少率は16%減に対し、児童生徒の減少率は33%減で、人口の減少率をはるかに上回る。

【質疑・意見等】

(町長)

園児数の減少が著しい中之条幼稚園と沢田幼稚園は、将来的に統合する必要があると感じている。今後、教育長を中心に教育委員会でも検討を進めていただきたい。

子育て支援センターの移設については、保護者の理解を得ながら進めていただきたい。人口減少率よりも児童生徒の減少率が高い点には衝撃を受けている。教育に関しては郡内全体で考えていく必要があると思う。

(湯本教育長職務代理者)

子どもの数では、中学校の生徒数を例に考えると、令和17年度に吾妻郡東部3か町村で360人、これは中之条、東吾妻、高山を合わせても1学年で120人しかいないことになる。早急に考えていかなければならない問題だと思う。六合中学校は令和8年度に新たな動きができるよう検討されているが、郡内ではまだ検討されていない学校が多く、これから検討が始まって、まとまるまでに10年近くかかるとすると、これ以上先送りにできない課題だと思う。

(石田委員)

学校統合ができたとしても、通学距離と時間がまた大きな課題になるのではないかなと思う。

子育て支援センターの移設に関しては、幼児の数も減少している中、保育所の増改築は難しいことから、保育スペースを確保する意味でも保育所内にある支援センターを幼稚園に移設するのは有効だと思う。

(奈良委員)

子育て支援センターの移設の件は進めていただいてよいと思う。郡内の中学校に関しては、現在でも通学距離の問題があり、これ以上の学校統合ができるのか難しいところだと思う。また、認定こども園化については、幼児の送り迎えまで考えていく必要があるのではないかなと思う。

（塚田委員）

子育て中の親から話を聞くと、幼稚園は夏休みなどがあり、仕事を持っている親には通わせることが難しく選択肢に入らない。また、子どもが小学校に入学した時に顔見知りが多い方が安心だと思っている方もいる。「早く、認定こども園化してほしい」という声は多く、「隣町ではできているのに、なぜ中之条町ではできないのか」という声も届いている。

（町長）

少子化に伴う吾妻郡の教育の在り方については、首長レベルでも議題に取り上げてまいりたい。郡内の教育長や教育委員会同士で話し合う機会があれば、ぜひ取り上げていただければありがたい。

（教育長）

幼稚園の園長経験から、幼稚園教育の大切さを実感している。一日たった4時間程度の教育課程であるが、子どもが小学校へあがるために必要な指導案が練られ、発達に合わせて計画的に実施されている。しかし、保護者にとっては、保育所の方がご自身のニーズにかなっている利点が多い。幼稚園教育の良さを広く啓発するとともに、将来は認定こども園化も視野に入れて取り組んでまいりたい。

（町長）

幼児教育の在り方については、今後も積極的に教育委員会の中でも議論を深めていただき、できるだけ早くお子さんをお持ちの方に中之条町の幼児教育を信頼してもらえるような取組ができるようにしてまいりたい。

子育てのまちづくりが、将来のまちづくりや高齢者の支えにつながると考えるので、子育て環境を整えることについては、来年度も引き続き注力してまいりたい。

○その他

（１）問題行動及び適応指導教室「虹」、日本語サポート教室「未来」の状況について
こども未来課長、資料について説明。11月までの実績が報告された。

（２）その他
なし。

○閉会（生涯学習課長）